

大田代小学校

児童数 19人
所在地 奥州市江刺田原字大平42番地
☎ 32-2333

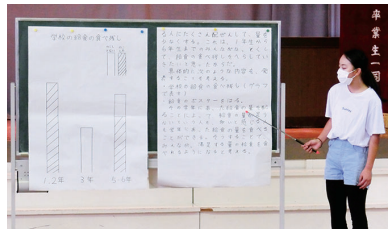


大田代小学校は、1873（明治6）年に創立され、150年近い歴史があります。学区は江刺地域の南東部に位置し、東側は一関市に接しています。学校は学区のおおむね中央部、東北新幹線水沢江刺駅の南東約6kmの高台にあります。学校が現在の位置に建てられたのは昭和15年で、昭和50年に今の校舎が落成しています。2代目で46年目の校舎ということになります。

大田代地区には大田代教育振興会があり、地区の全戸で構成されています。その多くがPTA会員にもなっていて、学校を支えてもらっています。保護者と地域の方のご理解とご協力の下、「明るくたくましく 精いっぱいがんばる 子ども」を目指して教育活動に取り組んでいます。

やまびこ集会

授業で取り組んだことを全校に発表する、ミニ学習発表会です。各学級がそれぞれ年に2回行います。「音楽の合奏」「教科書の音読」「総合的な学習の時間で調べたことの発表」など、内容はさまざまです。



調べたことを発表する6年生

学校通信

こんにちは、カモシカ親子

10月のよく晴れた日の給食時間、児童が気付き知らせてくれました。国の特別天然記念物の指定を受けているカモシカ。美味しい給食の匂いにつられ、山から降りて来たのかもしれません。



仲良く姿を見せました

す。毎回、発表する側からは緊張感が感じられますが、発表後には素直な驚きや頑張りをもたえる感想が寄せられ、温かい雰囲気になっています。

大田代子ども神楽伝承活動



優雅に舞を披露します

郷土の理解と郷土愛を育成し、自信と誇りを持つことをねらいとして、地域に伝わる「川内神楽」の演目の一つを、学校教育に取り入れたものです。昭和56年に始まっているので、40年近い歴史があります。6年生が中心となって下級生に踊りを教え、川内神楽保存会の方に仕上げの指導を受け、伝承しています。毎年、5月の運動会（今年は中止）と2月の伝承式で披露しています。

水生生物調査

市生活環境課の指導の下、隔年で学校近くを流れる釜ノ沢川の調査を全校児童で行っています。今年の調査では、縦割り班ごとに川底の石をひっくり返したり水際を探ったりして、カゲロウやヤゴ、カワゲラ、サワガニなど、清流に多くすむ生物を発見し、河原は歓声につつまれました。調査の結果「水質階級Ⅰきれいな水」と判定されました。



水生生物調査の様子

国語大会・算数大会

授業で学習した内容の復習テストです。国語、算数ともおおむね月1回行っています。作題者は校長先生で、目標の得点の達成に向けて全児童が熱心に取り組んでいます。1学期は全員が目標を達成し、校長先生から表彰されました。



表彰される児童たち

市I L C推進連絡協議会の総会が11月17日に開催されました。昨年度の事業報告のほか、I L Cの誘致実現に向けた本年度の事業計画などが承認されました。

総会後は、県I L C推進局の植野歩未I L C推進監を講師に、講演会が開催されました。講演会の中では、欧米から支持が示されたことに加え、研究者コミュニティであるI C F Aが国際推進チームを設立した経緯などを解説。また、岩手県と宮城県の大学や自治体などから構成される東北I L C事業推進センターが行う、建設候補地周辺の地形



I L Cの最新動向が説明された講演会

市は、多文化共生推進講演会を11月10日に開催しました。災害時などにおける地域の対応力の向上が求められている中、外国人の居住環境の充実を図ることを目的としたものです。防災や国際交流の関係者など約60人が参加し、講師

の弘前大学・佐藤和之名誉教授が語る「やさしい日本語」について、熱心に耳を傾けました。

佐藤名誉教授は、日本各地に共通する課題として「外国人住民との外国語を使つての意思疎通には限界があり、典型的な例として、防災直後の被災外国人は身の安全を確保する情報を得にくい状況にある」と指摘しました。一方で「難しい言葉を避け、一文を短くしたやさしい日本語の場合、日本で1年程度居住した外国人であれば、8割が理解できた」という実験結果を示しながら、その有効性を解説しました。また「やさしい日本語は、外国人が災害時に大切な情報から遮断されてしまうことを防ぐために作られた表現であり、研修などを通じて、平時から習得を目指してほしい」としました。

I L C計画が実現すると、欧米を中心とした多国籍の研究者などがこの地域に来ると見込まれます。外国人と日本人が共生できる地域社会づくりを目指していきましょう。

は県I L C推進局の植野推進監より、最新動向について講演をいただきました。I L C実現のため、今後も県や関係機関と連携し、啓発活動などに取り組んでまいります。

11月25日、市民憲章推進協議会主催の市民憲章実践者表彰式に出席しました。コミュニティの推進や環境美化活動などを通じて、市民憲章の普及推進に取り組んだ皆さんに敬意を表します。同協議会は本年度で解散となりますが、市では、今後も市民の皆さんと連携し、市民憲章の普及啓発に努めてまいります。

拓殖大学前客員教授の高橋力さんより、「まんが岩手人物シリーズ・後藤新平」を寄贈いただきました。新型コロナウイルスが拡大している現在、明治時代に世界史上最大規模の検疫事業を成し遂げ、疫病のまん延防止に貢献した後藤新平が改めて注目されています。市内小中学校、図書館に配置しますので、郷土の偉人をさらに深く知っていただければと思います。

奥州市長 小沢昌記



地質調査や物流の検討などの活動が、日本政府の意思表示の後押しにつながると強調しました。さらに、奥州市は国際交流協会の医療通訳などの活動が活発であるほか、国立天文台や奥州宇宙遊学館の活動などサイエンスへの理解が深い環境にあり、このような強みを生かし、市まちづくりビジョンの具体化を進めてほしいと話しました。

おとうしゅう 羅針盤



おとうしゅう 羅針盤